元スケジュール

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **日程** | **内容（ システム ・ 医療 ）** | |
| 10/18～10/29 | 環境作成・フレームワーク理解 | レイアウト作成 |
| 11/ 1～11/10 | 内部設計 | 環境作成・フレームワーク理解 |
| 11/11～11/30 | アプリ開発 | |
| 12/ 1～12/17 | 開発・結合（仮完成） | |
| 1月 から 2月 | 資料作作成、発表練習、手直し、機能追加 | |

変更(10/29)

|  |  |
| --- | --- |
| **日程** | **内容（ システム ）** |
| 10/18～11/5 | 環境作成・開発準備 |
| 11/ 8～11/9 | 内部設計・実装機能話し合い |
| 11/10～11/30 | アプリ開発 |
| 12/ 1～12/17 | 開発・結合（仮完成） |
| 1月 から 2月 | 資料作作成、発表練習、手直し、機能追加 |

|  |  |
| --- | --- |
| **日程** | **内容（ 医療 ）** |
| 10/18～11/5 | レイアウト作成 |
| 11/ 9～11/9 | 内部設計・実装機能話し合い |
| 11/10～11/17 | 環境作成・開発準備 |
| 11/18～11/30 | アプリ開発 |
| 12/ 1～12/17 | 開発・結合（仮完成） |
| 1月 から 2月 | 資料作作成、発表練習、手直し、機能追加 |

変更(11/05) //最新

|  |  |
| --- | --- |
| **日程** | **内容（ システム ）** |
| 10/18～11/9 | 環境作成・開発準備 |
| 11/10 | 内部設計・実装機能話し合い |
| 11/11～11/30 | アプリ開発 |
| 12/ 1～12/17 | 開発・結合（仮完成） |
| 1月 から 2月 | 資料作作成、発表練習、手直し、機能追加 |

|  |  |
| --- | --- |
| **日程** | **内容（ 医療 ）** |
| 10/18～11/9 | レイアウト作成 |
| 11/ 10 | 内部設計・実装機能話し合い |
| 11/11～11/17 | 環境作成・開発準備 |
| 11/18～11/30 | アプリ開発 |
| 12/ 1～12/17 | 開発・結合（仮完成） |
| 1月 から 2月 | 資料作作成、発表練習、手直し、機能追加 |

※金曜日の1限目段階です

全体スケジュールをブレイクダウンした終了までの計画

再策定したスケジュール（スケジュールを変更する際に元のスケジュールを消さないこと）

現在の実績

環境作成終了

Djangoログイン機能のテスト

13画面のレイアウトが完成、残り３～４画面

論文をレイアウトにどう適応するかの考察100％

考察した内容のレイアウト適応済みは7画面

誰がどの作業を担当する予定なのか

医療側のレイアウト作成以外は、基本的に上のスケジュールで時期は異なりますが、全員同じ作業をします。詳細内容でしたらまだ決まっていません。

誰がどの作業を現在担当しているのか

青木・渡部くん・澤野くん：開発準備としてアプリ開発の理解と資料残し

清さん：画面レイアウトをエクセルで作成

長井さん：作成されたレイアウトに論文等から得た可視化向上条件の仮説を適応（変更）する作業。

複数人で作業する場合はその作業の責任者は誰か

開発準備：青木

画面レイアウト：清さん

レイアウト論文適応：長井さん

各作業の実施する概要

環境作成：

VSCodeでDjangoをインストールし、Pythonの仮想環境のバージョン合わせと、Gitとの連携方法をブランチ含め理解する。

開発準備：

実際にアプリ開発に入っても問題がないように、試しでアプリを作成し、Djangoの流れなどをコードリーディングで理解し、理解したことを随時資料に残す。

レイアウト作成：

エクセルに必要となる画面レイアウトを作成してもらい、そこに若年層のVDT作業・可視化関連の論文を適応させてもらう。

内部設計：

必要となるＤＢやシステム内部の流れをどのようにするか決める。

実装機能話し合い：

スケジュールがずれても大丈夫なように、必要最低限の機能を選定するとともに、後回しにしていい内容などを仕分ける。

アプリ開発：

実際に卒研のアプリを開発する。

開発・結合(仮完成)：

開発をするとともに、一度完成を第一優先に結合し、アプリ作成＆デバッグ作業＆漏れている機能などを探し、仮完成させる。

資料作成、発表練習、手直し、機能追加：

研究対象の評価と発表資料の作成、発表の練習、その裏でアプリの完成度を高め、時間が余るのであれば、機能の追加を行う。